

一日一日を大切に

読谷中学校一年 宮城 美来

中学生になり、六月になると戦争について  
考えることが多くなり、いろいろな記事を読  
んだり、調べたりして、私の知らなかった残

酷な世界が少しずつ見えてきました。  
その中で、私は今の時代はほとんどどの国  
が生きたいやら生きる事ができる。しかし

戦争中は他人に自分の生死を決められてしま  
うような環境が世界、ここ日本にもあったの

だ。と思いました。  
そしていま、私たちが生きているのは当た  
り前ではないことをあらためて感じました。

戦争の時、軍人として戦地に連れていかれ  
た人は、生き残っても、たくさん命を奪

た卒さが一生残ってしまうくらい残酷な戦争  
私は、これまで戦争から生き返り帰れたら、お

んが喜び、幸せになると思っ  
ていました。

だが、おんがみんなそうではなく、  
一人の命を奪ってしまっ

た。

「自分ひとり生き残ってしまっ  
と考える人もたくさんいて、本来の自分を見  
失ってしまいうらい戦争が終わってもその人  
たちの心には、死ぬまで終わることのない戦  
争に悩んでしまいつらい過去としてずつと  
残ってしまいうことを知りました。  
たとえ戦争が終わっても、その人の  
心の傷が癒えることはいえないと思いました。戦  
争が起きたことで、幸せなはずの一日一日が  
一瞬で消えてしまふと思うと、とても恐ろし  
いことです。

私は毎朝ご飯をいっぱい食べ、学校に行き  
友達とくだらない話で盛り上がります。家に  
帰ったり、家族がいて好きな時にお風呂に入  
ったり、宿題をしたり、家族と今日会った出  
来事を話して一日が終わります。  
そんな毎日々が当たり前に前ではなく、尊いもの  
である。心の底から思っています。戦争を体験し  
ていはい私たちが、平和のありがたさをわす  
れがちです。だからこそ、平和学習を通して

私はい、平和な世の中を作っ  
ていかねなくてはい  
けないと感じています。

これからは、一日一日を大切に  
生き、当たり前を大切にし、  
生きていくことに感謝して  
いきたいです。